

## 第7回協働推進委員会記録

日時	平成27年3月24日(火) 15:45～17:15
会場	豊明市分庁舎会議室1
出席者	委員: 青山孝司、天野ゆかり、小池田忠、小島博司、濱田堯、樋口正紀、三矢勝司、矢澤久子 (以上8名) 区長連合会役員: 橋本練輔、糸魚川幸江、兼子勝利、久野博足、小川鎮夫、海老原勉、鈴木勝男 (以上7名) 学生ボランティア2名 豊明市: 市民協働課長、市民協働課長補佐、協働推進係職員(1名)

### 議 事

#### 1. 委員長あいさつ

#### 2. 協議事項

- ・「第6回協働推進委員会記録」により、前回会議の内容を確認した。

##### (1) これまでの成果の確認

- ・前回議事録に基づいて、事務局より説明。

##### (2) 「課題共有」及び「今後の連携」(区長連合会役員会×協働推進委員会)

- ・資料に基づき事務局より、協働推進委員会及び区長連合会についての説明の後、三つのグループで、区役員の業務やコミュニティサロンに関して議論を行った。
- ・その後、議論の結果を全体で共有。

- ・共有された内容は次のとおり。

##### (1 グループ)

- ・区長の仕事は多い。PCスキルも必須。
- ・市からの連絡や依頼が各課バラバラと来る。
- ・大きなコミュニティではなく、小さなコミュニティを目指す。向こう三件両隣の関係を作っていくところからスタートする。コミュニティサロンの運営は、場所とリーダーの選び方が重要。場所は歩いていける場所が良い。
- ・また、中央のセンターは、地区のコミュニティサロンの交通整理の役割でよい。

##### (2 グループ)

- ・区長連合会全体では議論をするには大きすぎる。地区会のような小さい枠組みの議論を活発にしていくと良い。地区会の方が、参加者が話しやすい。
- ・区長の任期を2年以上かつ再任を可とすることや、副区長を2人以上にすることが必要。任期を2年以上にすることは、区の運用に任せるのではなく、市の依頼で行うようにした方が良い。

- ・区や町内会だけではなく、子ども会など多様な主体と連携していかないといけない。

(3 グループ)

- ・区長のなり手がいない。任期は1年が限界。
- ・ただし、区長経験者が、役員に残る仕組みが必要。
- ・二村台地区では、夏まつりで区を越えた取り組みを行っている。地域のまつりは、連携のきっかけとなる。

(まとめ)

- ・本日の議論を踏まえて、委員長がまとめた内容は次のとおり。
- ・区長の業務負担を軽減するための調査や仕組みの検討を市が行うべき。必要に応じて、外部委託するなどして実施したほうが良い。交通整理の役割が必要。
- ・今後は、これまで以上に区長連合会の地区会を活発にしていけることが必要。地区会とコミュニティサロンが連携する。
- ・区長の事務作業は膨大。区役員の事務を減らすこと、効率化をサポートする仕組みが必要。
- ・次年度から区長連合会、協働推進委員会が連携して行う「まちづくりを支援する拠点、担い手の検討」は、本日の議論を踏まえ進めていくこととなった。

その他

- ・事務局より、27年度になってから、各地区に対し「まちづくりを支援する拠点、担い手の検討」に関する出席者を依頼することを説明。各地区2-3名程度。途中で出席者を変更することも可能と説明。